雨の日の子どもの遊び場づくり

背景
温暖化や気候変動による雨の日の頻発、長期化などにより、子ども同士の交流、世代を超えた交流の場、遊びの場が地域や身近に少なくなっていないだろうか。最近はサッカーやテニス、野球など集団での練習に加わる子たちが増えているとはいえ、みな晴天であったらばこその話。昭和の時代なら商店街や長屋の路地とかなにかと遊ぶところが各所にあったのにと思う人は多いはず。そこで、温暖化に加えて少子化時代の、両親が働いている時代の身近な遊び場づくりを提案してみたい。
方法
１雨の日の子どもの遊び場いろいろ確保
①玄関前大ひさし
家づくりに関連するが、玄関前の庇を大きく儲け、その分コンクリートの叩きを広げれば、子供たちなりの遊びの工夫によって恰好な遊び場になる。
②ベランダの上に突き出た大ひさし
二階にベランダを設けるようにする。そしてベランダ分の大きな庇があれば十分な遊び場になる。一人っ子でもプランターや植木鉢を置いて野菜や植物育てができるという利便も増す。
③駐車場あるいはカーポートに大テラス
規定枠よりも少し長めのものを、横広がりのものをと考えたい。なければ少々の付け足しで、ということになる。
２公園に世代交流あずまやを
四角な大屋根さえあればよく、屋根の下にはベンチのほか、お茶が飲めるテーブルや展示用板があればよい。行政任せでなく自治会が設置主になってもよい。展示板には絵画や願いごとなどを掲げて密な話題を誘うきっかけにする。老若が連絡し合い、貴重な世代間交流の場、子供たちの見守りの場にもなるというもの。
３結果
①温暖化や気候変動は今後も長く続くと言われているので、時節にあった、将来をも勘案した子供の遊び場確保につながる。
②近隣交流、世代を超えた交流の活発化により新たな、加えて創造性ある地域づくりにもつながり、住み続け、移り住んでみたいまちになる。
③雨の日も遊べるという安心感から子らのストレス解消につながり、子の親への信頼感も増すとともに、温暖化時代の家づくりのひと工夫、アイデア作品の提示につながる。